

名古屋港のここがポイント! 14



ふねの歴史 2

15世紀頃になると、風の力だけで船を進めることができるようになるよ。人の力で船を漕ぐ必要がなくなったので、水と食糧が続き限り、どこまでも行けるようになったよ。そのため、コロンブスが新大陸発見に出港したり、マゼランが世界一周をしたりしたんだ。この時代から**大航海時代**と呼ばれるようになったよ。



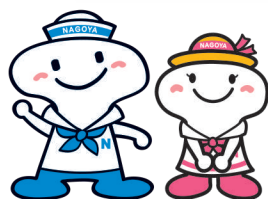
でも、大航海時代が始まると、新発見した土地を植民地にするため、領土争いの戦争や、海賊行為が絶えなくなりました。そのため、この時代の船には多くの大砲がついてるの。



18世紀頃になると、領地の争いは少なくなり、代わりに商売の競争が激しくなりました。商品を早く運ぶため、大砲はなくなり、船の形はスリムになったよ。



また、この頃には、蒸気機関が発明され、蒸気船が作られ始めました。始めの頃は蒸気力が弱く、太平洋や大西洋などの大きな海は横断できなかったため、蒸気機関と帆が両方ついているの。こういう船を**汽帆船**と呼ぶのよ。



19世紀には、鉄の船とプロペラが発明されました。蒸気機関も性能があがり、やがてエンジンが開発されるんだ。帆の役割は少なくなり、小さくなったよ。だんだん形が現代の船に近づいてきているよね。19世紀の終わり頃には、帆船の数より汽船の数の方が多くなって、やがて帆船は練習用を残して、なくなりました。

